



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和6年 第8週（2/19～2/25）【概要版】

令和6（2024）年 2月 29日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- インフルエンザは、前週と比べ減少していますが、引き続き高い水準にあり警報を発令しています。東近江保健所圏域で多く報告されています。
- RSウイルス感染症は、「例年より非常に多く」報告されています。大津市保健所圏域で多く報告されており、今後の動向に注視が必要です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、横ばい傾向で「例年より多く」報告されています。長浜保健所圏域で多く報告されています。全国的に引き続き高い水準となっており、動向に注視が必要です。

2. 報告数が多かった定点把握疾患（五類感染症）ⁱ

（1）滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別 ^(iv)						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ	19.47	17.77	13.97	警	○		注	注	注	注	↑	注	
感染性胃腸炎	4.61	4.14	5.53		○		↑	↑		↑	多	多	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.81	1.61	1.72		○				↑	多		多	
インフルエンザ入院	0.71	0.86	1.14		○	○		↑	多	多		多	
RSウイルス感染症	0.06	0.03	0.36		○	○	多			↑			

（2）前週の全国、滋賀県および近隣府県の状況（下線：滋賀県よりも多い）

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
インフルエンザ	<u>20.64</u>	17.77	<u>21.41</u>	<u>22.74</u>	<u>23.31</u>	12.01	<u>20.65</u>
感染性胃腸炎	<u>5.73</u>	4.14	<u>5.87</u>	<u>4.92</u>	<u>5.84</u>	<u>4.55</u>	<u>7.42</u>
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>3.68</u>	1.61	<u>2.87</u>	<u>2.36</u>	<u>5.00</u>	<u>2.17</u>	<u>4.09</u>
インフルエンザ入院	<u>0.97</u>	0.86	<u>2.22</u>	0.57	0.50	0.60	0.56
RSウイルス感染症	<u>0.15</u>	0.03	<u>0.38</u>	<u>0.09</u>	<u>0.24</u>	<u>0.17</u>	<u>0.04</u>



3. 全数把握疾患（滋賀県、今週診断例）

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	1	1	2			2						
三類	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	1	○	○							1

i. 定点把握疾患：人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点（医療機関）で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
ii. 警：警報発令、注：注意報発令
iii. 今週の値が過去5年の同時期（全数把握疾患は同時期の累積報告数）の「平均値」よりも多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」よりも多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記（定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用）
iv. 「警：警報開始基準を超過」、「注：注意報基準を超過」、「多：今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑：前週比増加」（「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記）

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和6年 第8週 (2/19~2/25) 【詳細版】

令和6(2024)年 2月29日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

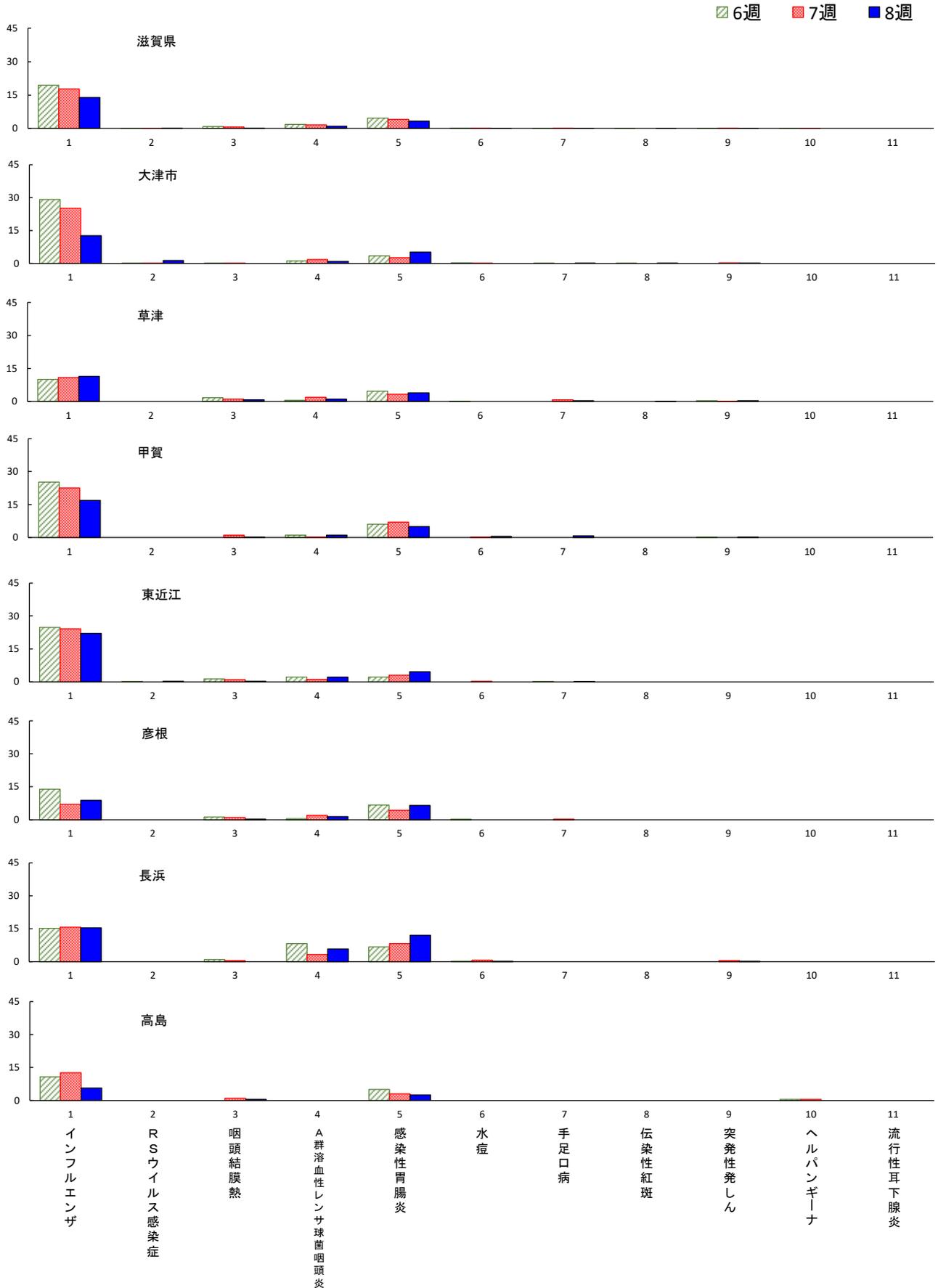
- インフルエンザは、前週と比べ減少していますが、引き続き高い水準にあり警報を発令しています。東近江保健所圏域で多く報告されています。
- RSウイルス感染症は、「例年より非常に多く」報告されています。大津市保健所圏域で多く報告されており、今後の動向に注視が必要です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、横ばい傾向で「例年より多く」報告されています。長浜保健所圏域で多く報告されています。全国的に引き続き高い水準となっており、動向に注視が必要です。

2. 定点把握疾患（五類感染症）の定点当たり報告数（全国は前週）の値^{i, ii, iii, iv}

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			保健所別 (iv)									基準値				
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大 津 市	草 津	甲 賀	東 近 江	彦 根	長 浜	高 島	全国 (前週) (iv)	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:60)	インフルエンザ	19.47	17.77	13.97	警	○		12.69	11.38	16.86	22.00	8.86	15.43	5.67	20.64	30	10	10
	RSウイルス感染症	0.06	0.03	0.36		○		1.38	0	0	0.33	0	0	0	0.15	-	-	-
	咽頭結膜熱	0.89	0.75	0.31		○		0	0.75	0.25	0.33	0.25	0	0.50	0.91	3	1	-
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1.81	1.61	1.72		○		1.00	1.00	1.00	2.17	1.50	5.75	0	3.68	8	4	-
	感染性胃腸炎	4.61	4.14	5.53		○		5.13	3.88	5.00	4.67	6.50	12.00	2.50	5.73	20	12	-
	水痘	0.14	0.19	0.08				0	0	0.50	0	0	0.25	0	0.12	2	1	1
	手足口病	0.06	0.19	0.19		○	○	0.13	0.25	0.75	0.17	0	0	0	0.17	5	2	-
	伝染性紅斑	0.03	0	0.06		○		0.13	0.13	0	0	0	0	0	0.02	2	1	-
	突発性発しん	0.08	0.14	0.14				0.13	0.25	0.25	0	0	0.25	0	0.19	-	-	-
	ヘルパンギーナ	0.03	0.03	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	6	2	-
小児科 (定点数:36)	流行性耳下腺炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.03	6	2	3	
	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	-	
	流行性角結膜炎	0.13	0	0.25		○	○	0	0	2.00	0	0	0	0.47	8	4	-	
	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
眼科 (定点数:8)	無菌性髄膜炎	0	0	0.14		○	○	0	1.00	0	0	0	0	0.01	-	-	-	
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.08	-	-	-	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.01	-	-	-	
	インフルエンザ入院	0.71	0.86	1.14		○	○	0	1.00	2.00	3.00	0	2.00	0	0.97	-	-	-

- 定点把握疾患: 人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」に達した場合に注意報(「注」)を発令します。
- 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- 赤字斜字:** 警報開始基準を超過、**紫字斜字:** 注意報基準を超過

3. 定点把握疾患（五類感染症）の保健所別推移（滋賀県、今週と過去2週）



4. 定点把握疾患（五類感染症）の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

インフルエンザ定点 (60医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	838	1	2	13	21	32	38	45	76	74	78	80	258	33	18	30	15	7	6	5	6
大津市保健所	165	-	-	1	4	2	5	12	11	15	15	10	49	9	9	8	11	3	1	-	-
草津保健所	148	1	-	5	5	7	5	2	15	16	12	15	48	7	4	4	1	-	1	-	-
甲賀保健所	118	-	-	1	3	2	8	7	10	9	9	11	32	7	1	4	1	3	2	3	5
東近江保健所	220	-	1	2	6	13	15	11	26	21	19	30	64	4	1	6	1	-	-	-	-
彦根保健所	62	-	1	1	1	2	1	7	6	3	9	7	15	3	-	3	-	1	1	1	-
長浜保健所	108	-	-	3	2	6	4	6	7	8	13	6	43	2	2	2	1	-	1	1	1
高島保健所	17	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	7	1	1	3	-	-	-	-	-

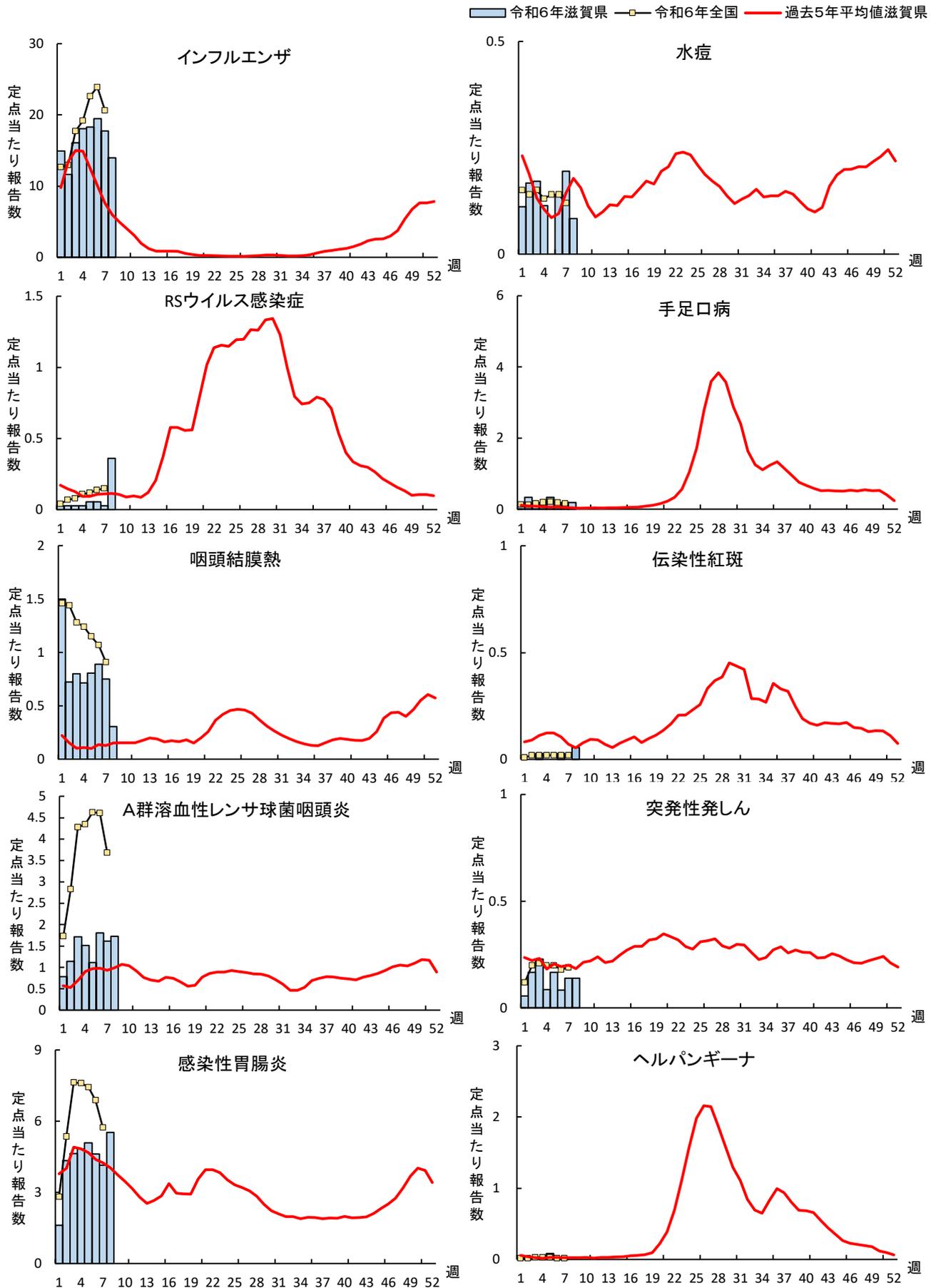
小児科定点 (36医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	13	1	-	1	1	-	1	1	1	1	2	-	-	-	4
咽頭結膜熱 (プール熱)	11	-	-	1	-	4	-	2	2	-	-	1	-	-	1
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	62	-	-	-	4	6	9	15	4	5	5	4	8	-	2
感染性胃腸炎	199	3	6	27	21	25	25	21	17	17	11	7	11	2	6
水痘	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
手足口病	7	-	1	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
突発性発しん	5	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

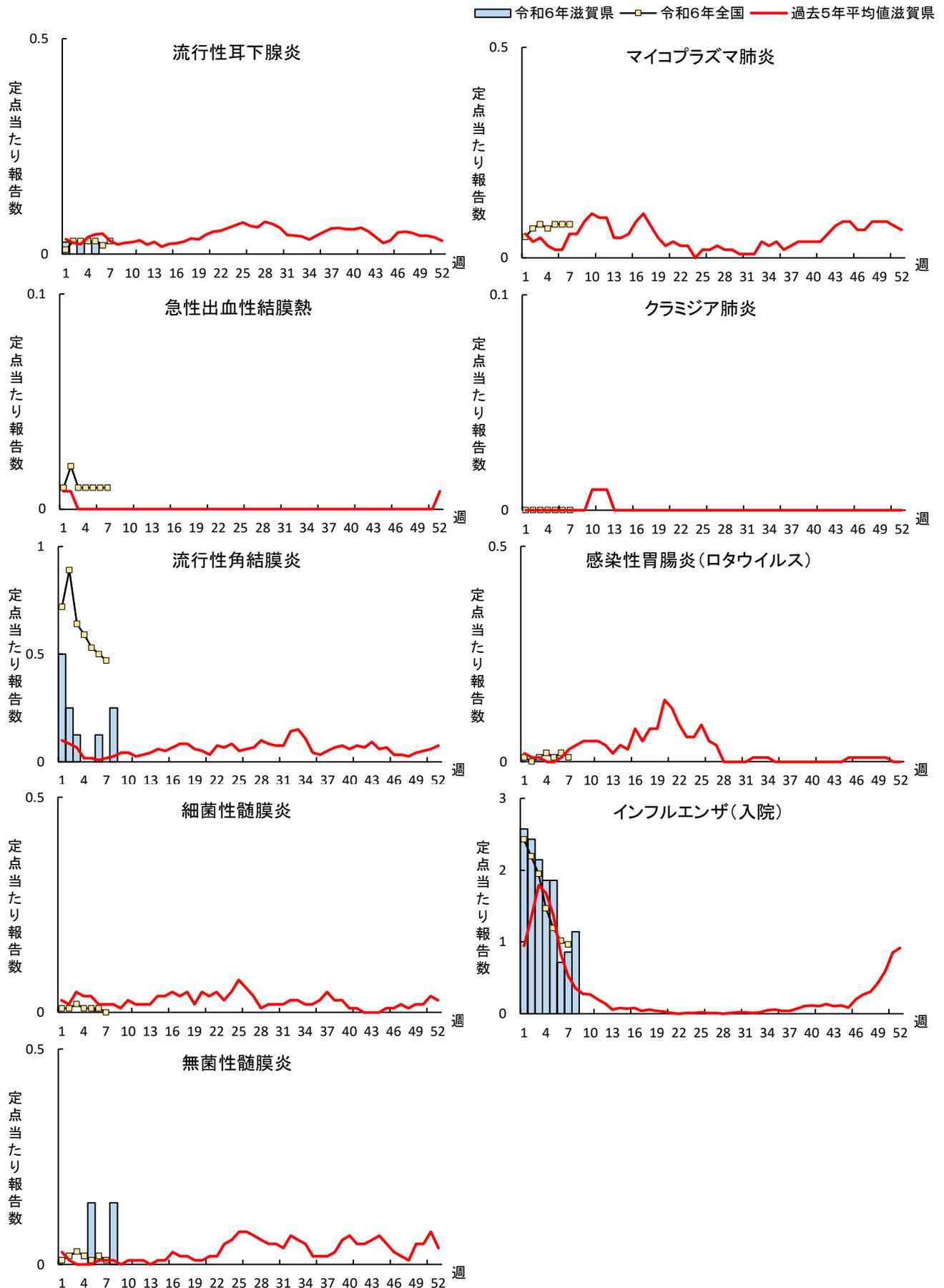
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院	8	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4

「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



5-2. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



6. 全数把握疾患 詳細情報（今週報告例）^v

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	08	大津市	60歳代	男	肺結核	県内	-
	結核	08	大津市	80歳代	女	脊椎結核・粟粒結核	県内	-
三類	腸管出血性大腸菌感染症	08	高島	20歳代	男	-	県内	O157 VT2

v. 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

今週の注目すべき感染症

■ 麻しん

(1) 麻しん(はしか)の注意喚起～麻しん患者の発生について～(奈良市保健所保健予防課)

<https://www.city.nara.lg.jp/uploaded/attachment/172784.pdf>

■ インフルエンザ

(1) インフルエンザに関する報道発表資料 2023/2024 シーズン(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou01/houdou_00014.html

(2) インフルエンザ Q&A(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

(3) インフルエンザとは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/219-about-flu.html>

■ 咽頭結膜熱

(1) 咽頭結膜熱について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou17/01.html>

(2) 咽頭結膜熱とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/323-pcf-intro.html>

■ 梅毒

(1) 梅毒に関する Q&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/syphilis_qa.html

(2) 梅毒とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>

■ 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する滋賀県の状況について(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryuhukushi/yakuzi/309252.html>

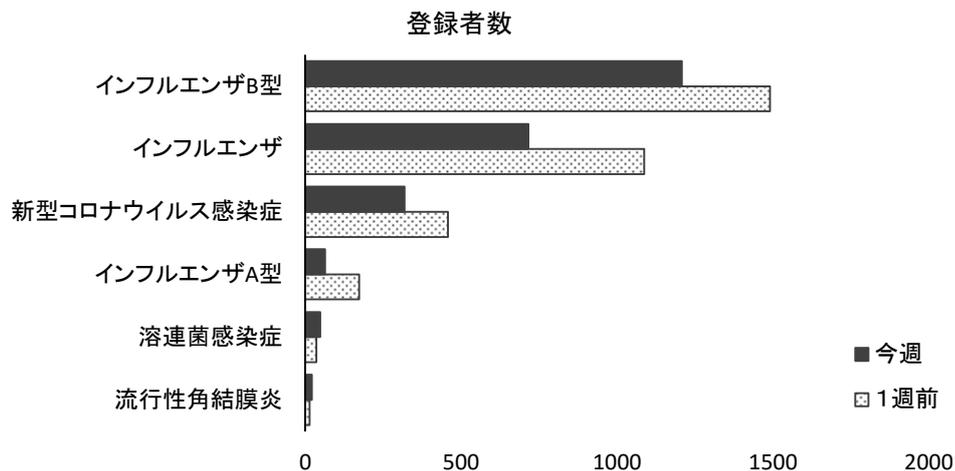
7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別（令和6年）^{vi, vii}

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国	昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	(前週)	滋賀県	全国
二類 結核			14 1.00	9 2.61	3 0.85	2 1.42	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1634 1.31	124 8.80	14694 11.76
三類 腸管出血性大腸菌感染症	○	○	4 0.28	0 0.00	1 0.28	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 1.36	2 2.25	155 0.36	38 2.70	3811 3.05
四類 E型肝炎	○	○	1 0.07	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 2.25	76 0.36	1 0.07	552 0.44
デング熱	○	○	1 0.07	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.65	0 0.00	0 0.00	19 0.36	0 0.00	175 0.14
レジオネラ症			2 0.14	0 0.00	0 0.00	1 0.71	1 0.45	0 0.00	0 0.00	0 0.00	227 0.18	32 2.27	2271 1.82
五類 アメーバ赤痢	○		2 0.14	0 0.00	1 0.28	0 0.00	0 0.00	1 0.65	0 0.00	0 0.00	61 0.05	8 0.57	485 0.39
劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1 0.07	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	338 0.27	14 0.99	941 0.75
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	○		1 0.07	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.45	0 0.00	0 0.00	0 0.00	129 0.10	3 0.21	943 0.75
侵襲性肺炎球菌感染症			4 0.28	1 0.29	2 0.57	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.68	0 0.00	417 0.34	27 1.92	1959 1.57
水痘(入院例)	○		1 0.07	0 0.00	1 0.28	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	42 0.03	9 0.64	400 0.32
梅毒			6 0.43	0 0.00	3 0.85	0 0.00	2 0.89	0 0.00	1 0.68	0 0.00	1485 1.19	78 5.54	14906 11.93
百日咳			1 0.07	1 0.29	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	66 0.05	15 1.06	1009 0.81

- vi. 今年第1週以降に診断された感染症の累積報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に「今年累積報告数」、下段に「人口10万人当たりの累積報告数」を示しています。
- vii. 今年と過去5年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）概況（滋賀県）

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム(https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



図：学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）において登録数の多い疾患

【全国情報】国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

感染症発生動向調査 週報 (IDWR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報 (IASR)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

インフルエンザ様疾患発生報告 (学校欠席者数)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】厚生労働省 HPに掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

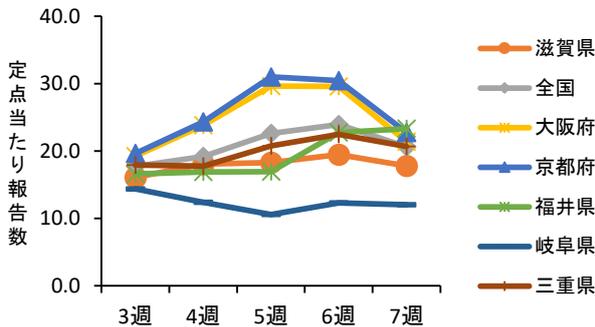
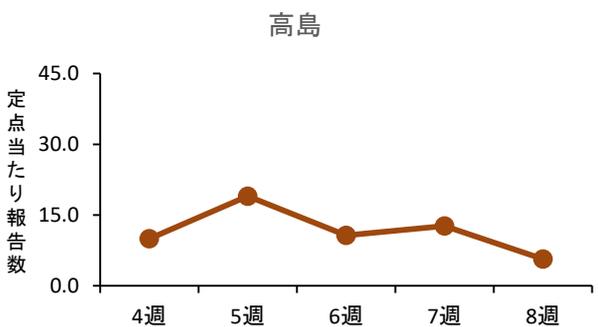
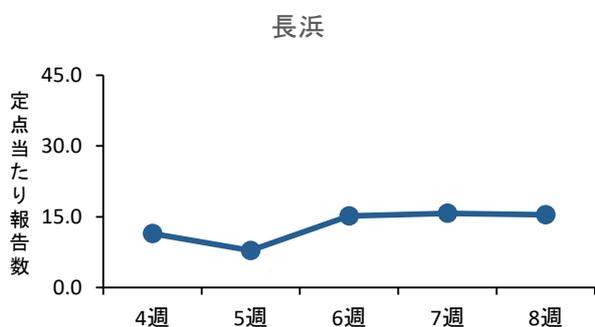
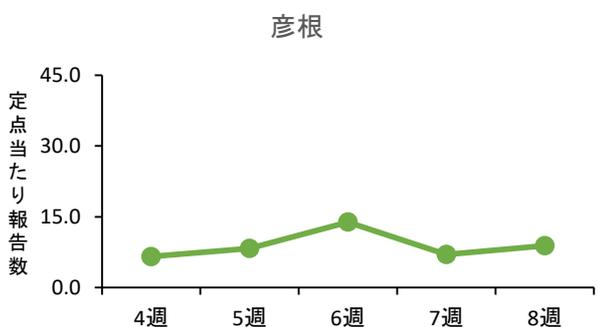
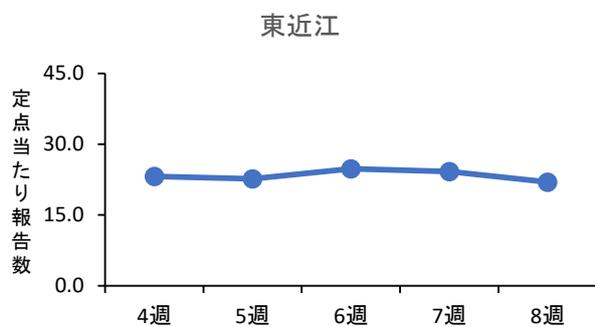
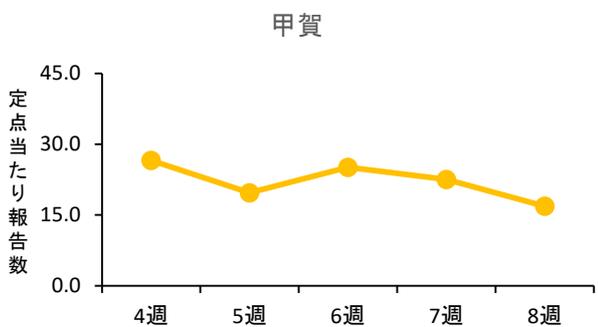
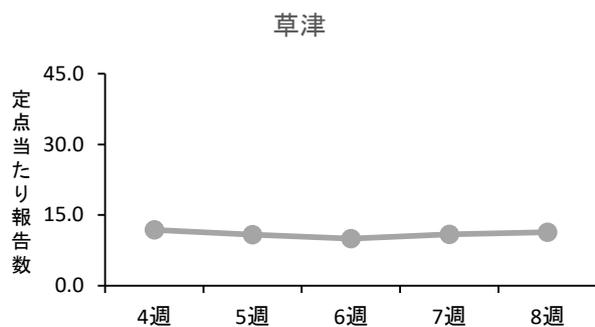
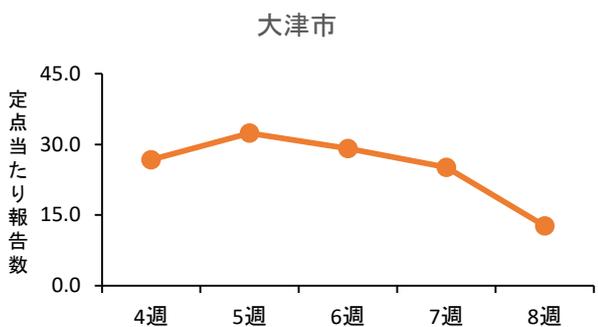
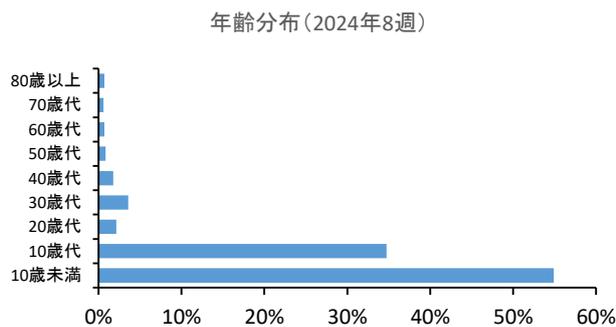
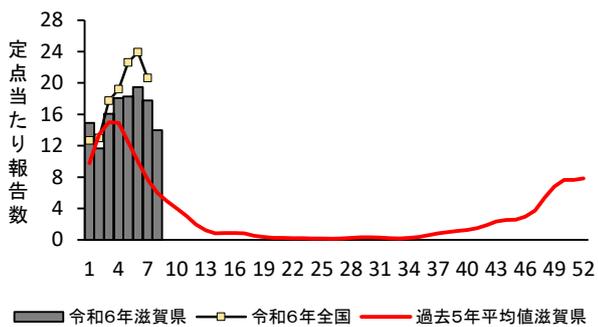
滋賀県感染症情報センターHP:

<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

滋賀県 インフルエンザ感染動向 令和6年第8週



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和6年 第8週 (2/19~2/25) 【COVID-19 情報】

令和6(2024)年 2月 29日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ・滋賀県の定点あたりの報告数は7.08で、前週(8.38)と比べて減少し、3週連続して前週を下回っています。
- ・年代別では10歳未満、60歳代と70歳以上で横ばい、その他の年代では前週と比べて減少しています。
- ・保健所別では増加傾向が見られる保健所圏域はありません。

2. COVID-19の定点当たり報告数(全国は前週)の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの1週間の報告数を定点医療機関数で割った値のことで、1医療機関当たりの報告数のことです。(COVID-19の例: 1週間の報告数200 ÷ 60 ≒ 3.33)

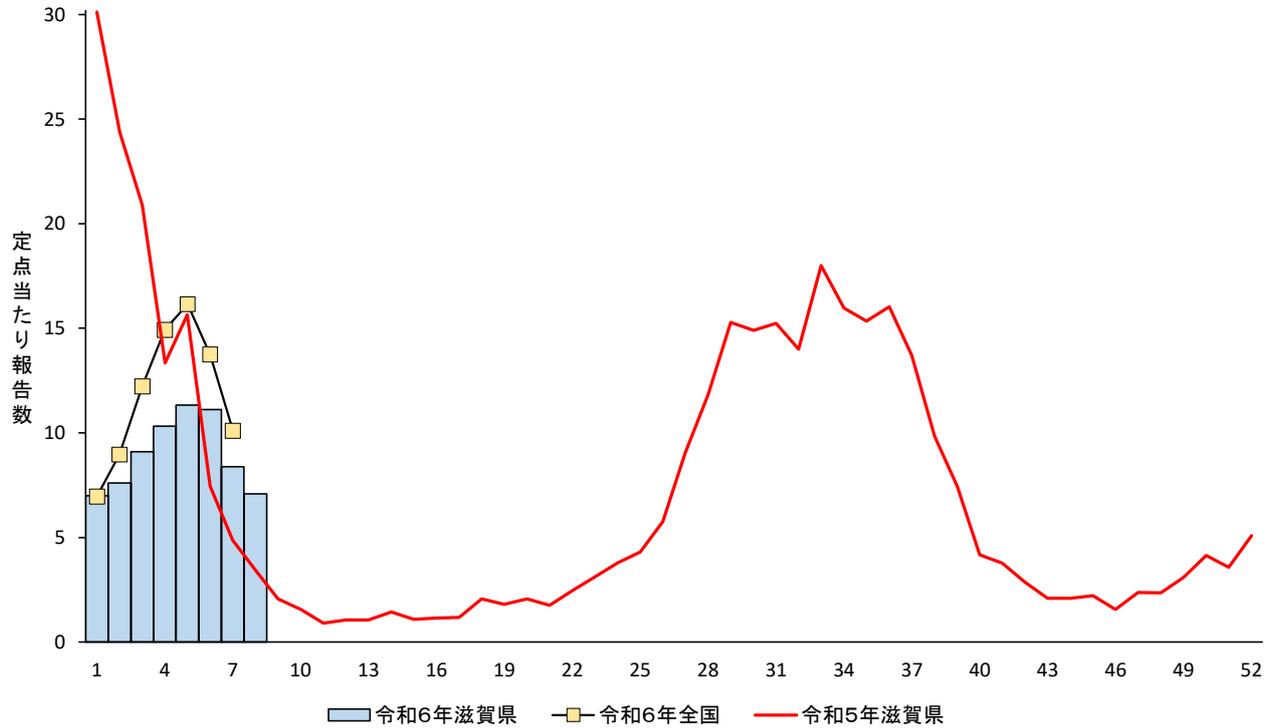
定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			保健所別							全国 (前週)
		2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
COVID-19 (定点数:60)	COVID-19	11.12	8.38	7.08	9.00	5.31	6.14	7.70	6.14	8.14	6.33	10.10
基幹 (定点数:7)	COVID-19入院	12.00	8.86	8.00	4.00	10.00	3.00	11.00	12.00	10.00	6.00	6.54

3. COVID-19の年齢階級別報告数(滋賀県、今週)

「-」: 報告なし

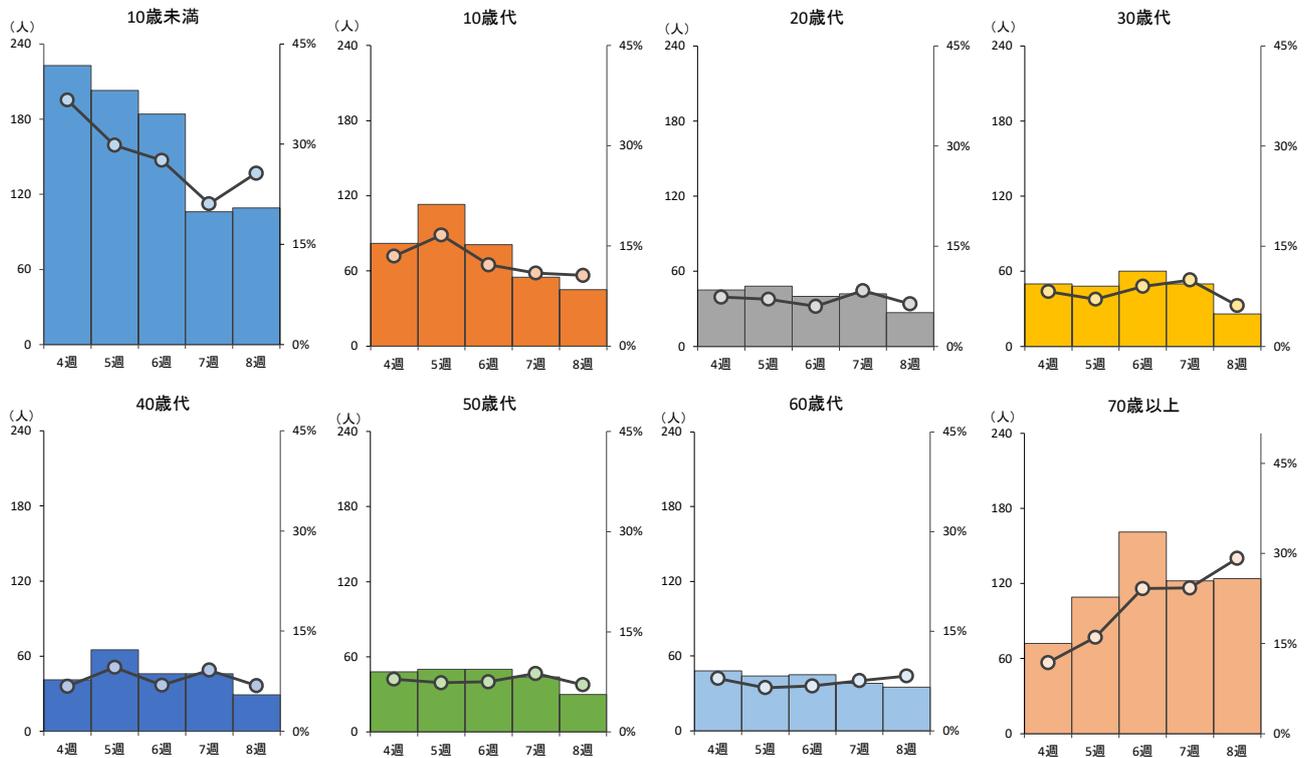
COVID-19定点	総数	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳~
COVID-19 (60医療機関)	425	6	7	16	9	14	16	8	7	7	8	11	29	16	27	26	29	30	35	54	70
大津市保健所 (13医療機関)	117	2	3	3	2	1	2	2	2	1	-	2	7	3	10	8	14	18	11	13	13
草津保健所 (13医療機関)	69	-	1	3	3	3	1	2	2	-	2	1	4	6	3	3	4	3	4	10	14
甲賀保健所 (7医療機関)	43	1	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	5	1	2	3	2	5	4	5	11
東近江保健所 (10医療機関)	77	-	1	7	2	6	6	1	3	5	2	1	2	2	2	5	6	3	5	10	8
彦根保健所 (7医療機関)	43	1	-	1	1	-	2	-	-	-	3	-	4	1	5	3	-	-	3	5	14
長浜保健所 (7医療機関)	57	2	2	2	1	3	4	2	-	-	-	6	7	2	1	1	1	1	7	9	6
高島保健所 (3医療機関)	19	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	4	3	2	-	1	2	4
COVID-19入院 (7医療機関)	56	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	5	19	27

4. 滋賀県と全国の COVID-19 の発生動向 (全国は前週まで掲載)

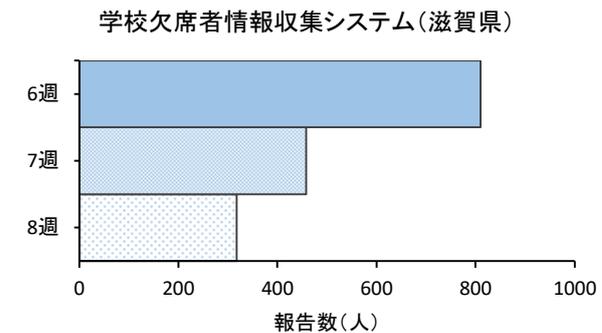
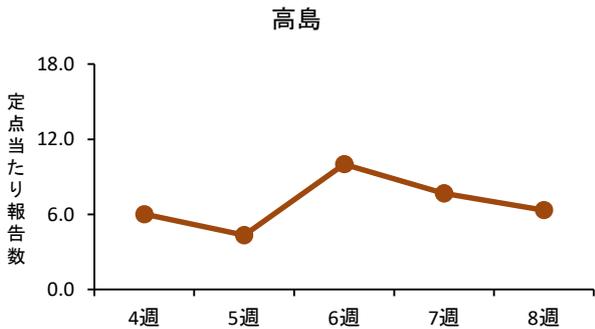
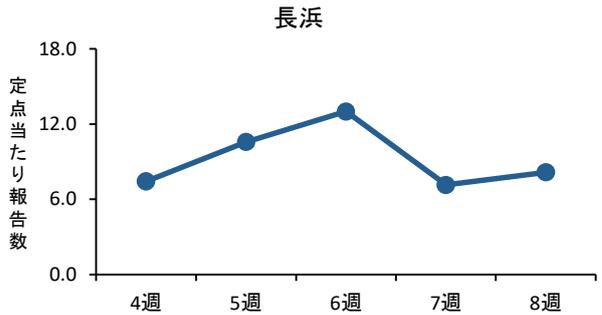
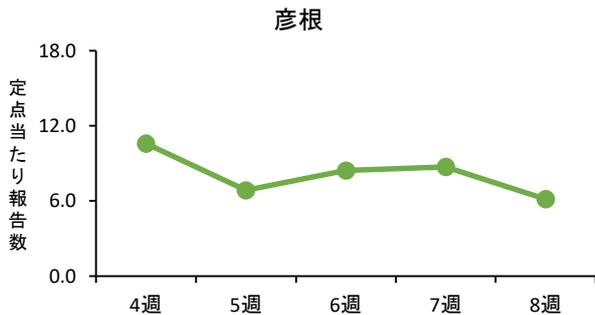
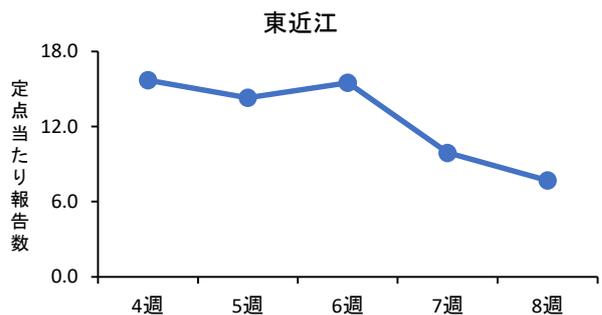
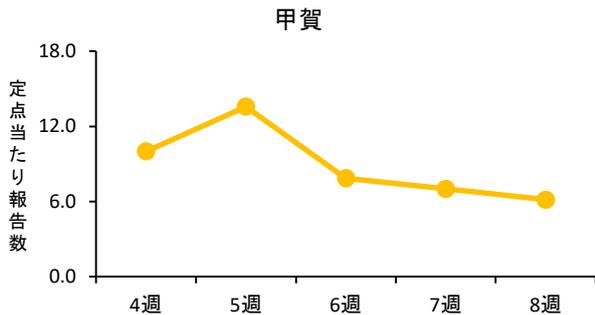
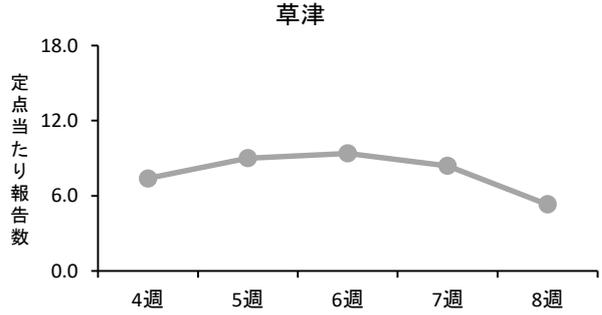
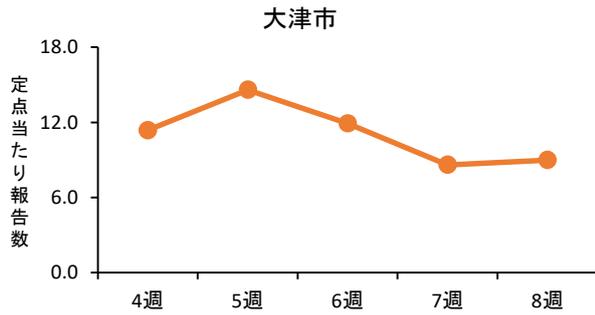
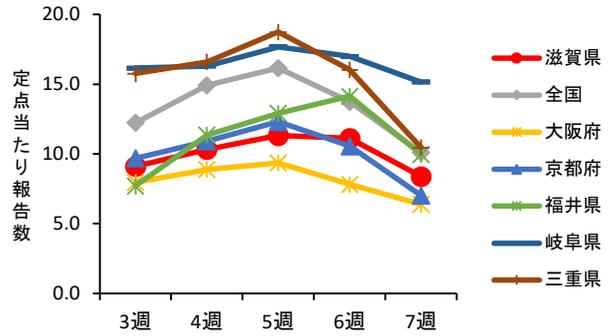
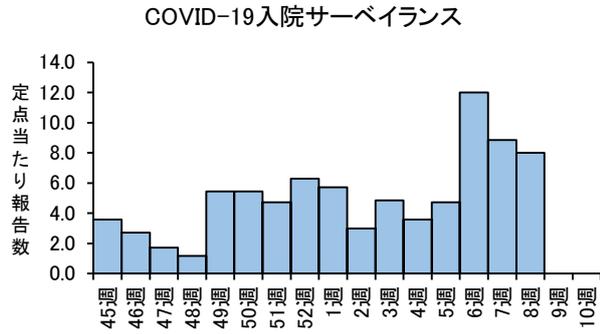


5. COVID-19 の年齢階級別推移 (滋賀県)

棒グラフ (左軸): 報告数 (人) 折れ線グラフ (右軸): 全年齢に占める割合 (%)



6. COVID-19の発生動向・保健所別推移等（全国・他府県は前週まで掲載）



1) 県内の入院状況

入院者数	うち重症者数
226	5

2/27更新データを掲載しています。
 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、通常の医療提供体制へ段階的に移行していきます。
 重症：ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式模型人工肺)が必要な方

2) クラスターの発生状況について

介護関連事業所	障害福祉関連施設	医療機関
1	0	0

2/19～2/25に県で確認したクラスターを掲載しています。
 保健所への相談、イベントベースサーベイランスでの検査等で、同一施設で5名以上の陽性者が確認された事例をクラスターとして報告しています。

3) 検査数

検査数	6,916件
-----	--------

2/19～2/25に県で確認した検査数を掲載しています。

4) 県内の外来対応医療機関のひっ迫状況について

県内の状況	9.4%
-------	------

2/19～2/25までに「ひっ迫している」と報告した医療機関の割合を算出しています。
 ※医療機関等情報支援システム(G-MIS)により集計

5) 救急搬送困難事案

発生件数	0件
------	----

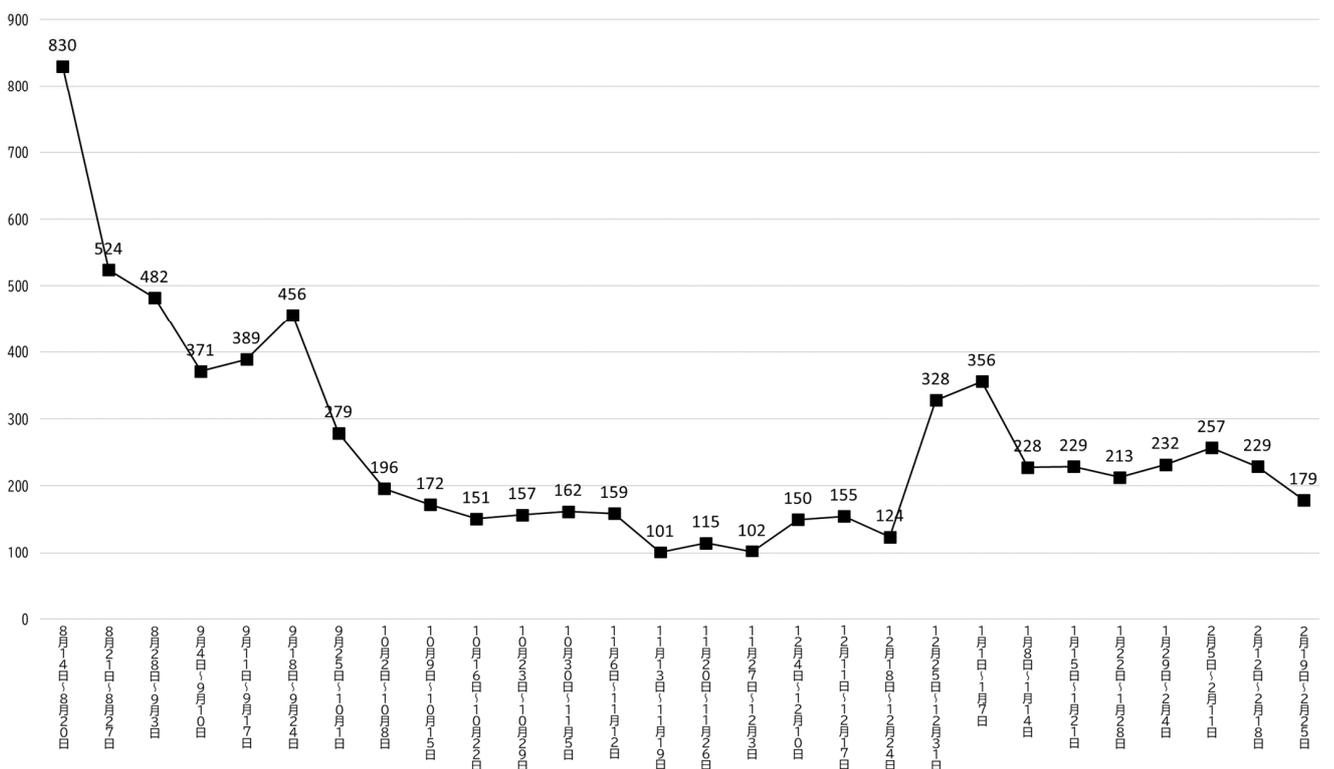
2/19～2/25における大津市消防局からの報告数を掲載しています。

相談体制について

相談件数(週計)

■ 受診・相談センター

相談件数(件)



変異株にかかるゲノム解析状況について

健康危機管理課
2月25日時点

- 世界的にはJN.1系統が88.2%(増加傾向)、EG.5系統が5.4%(減少傾向)、BA.2.86系統(JN.1系統を除く)が3.7%(減少傾向)を占めている。(WHO COVID-19 Epidemiological Update Edition 164 published 16 February 2024)
- 全国的にはJN.1系統は増加傾向であり、滋賀県では令和5年11月に初めて検出された。EG.5系統(HK.3系統を含む)およびBA.2.86系統(JN.1系統を除く)は減少傾向である。
- 滋賀県では、令和6年1月時点でBA.2.86系統が全体の36.1%(うち JN.1系統は28.9%、BA.2.86系統(JN.1系統を除く)は7.2%)、XBB系統が全体の36.1%(うち EG.5系統(HK.3系統を含む)は34.9%、その他XBB系統は1.2%)を占めており、主流系統が XBB系統からBA.2.86系統に置き換わりつつある。中でも、JN.1系統が増加傾向(令和5年11月:2.0%、12月:17.2%、令和6年1月:28.9%)であり、今後の動向に注意が必要である。
- 世界中で拡大しているJN.1系統は、EG.5系統(HK.3系統を含む)や先祖株であるBA.2.86系統よりも拡がりやすい可能性があるとして報告された。HK.3系統やBA.2.86系統よりも免疫を逃れる性質は強いが、ワクチンの効果はこれまで流行していたXBB系統と同程度の有効性が期待できるという見解が示されている。また、重症度が高くなる知見はなく、公衆衛生上のリスクは他のオミクロン株と同等とされている。(令和6年1月5日 東京大学医科学研究所, 令和6年2月16日 国立感染症研究所)

ゲノム解析結果(検体採取日別 月報) (注)グラフの数値は、2月25日時点の暫定値です。

